

参 考 資 料  
令 和 元 年 7 月 2 5 日  
市 民 協 働 部 新 市 民 会 館 整 備 課  
都 市 計 画 部 泉 町 周 辺 地 区 開 発 事 務 所

## 水戸市新市民会館等施設建築物

(概要)

計画概要	・・・	01
配置計画＋外構計画	・・・	02
平面計画	- 平面計画概要1	・・・ 03
	- 平面計画概要2	・・・ 04
	- 平面計画概要3	・・・ 05
断面計画		・・・ 06
細部計画	- 大ホール概要1	・・・ 07
	- 大ホール概要2	・・・ 08
	- 大ホール概要3	・・・ 09
	- 中ホール概要	・・・ 10
	- 小ホール概要	・・・ 11
	- やぐら広場の使い方	・・・ 12
	- 2階展示室・スタジオの使い方	・・・ 13
	- 3階会議室の使い方	・・・ 14
ユニバーサルデザイン計画		・・・ 15
防災計画		・・・ 16
環境計画		・・・ 17
構造計画		・・・ 18
機械設備計画	- 機械設備概要1	・・・ 19
	- 機械設備概要2	・・・ 20
電気設備計画		・・・ 21
外観イメージ①	- 鳥瞰パース	・・・ 22
外観イメージ②	- 国道50号側	・・・ 23
外観イメージ③	- 水戸芸術館側	・・・ 24
外観イメージ④	- 夜景・国道50号側	・・・ 25
内観イメージ①	- やぐら広場	・・・ 26
内観イメージ②	- ラウンジギャラリー	・・・ 27
内観イメージ③	- 大ホール	・・・ 28
内観イメージ④	- 中ホール	・・・ 29
内観イメージ⑤	- 小ホール	・・・ 30

# 計画概要

## ◆敷地概要

建築場所	茨城県水戸市泉町1丁目7番地内
敷地面積	8,284.95㎡
法定建ぺい率	80%以下（耐火建築物は100%以下）
法定容積率	600%以下
周辺道路現状幅員	南側：27m（国道50号） 西側：17m（市道上市189号線） 北側：14m（幹線市道4号線） 東側：10m（市道上市192号線）
用途地域	商業地域
高度地区	第6種高度地区（高さの最高限度60m以下）
日影規制	制限なし
防火指定	防火地域

## ◆建物概要

主要用途	劇場、物品販売業を営む店舗
主要構造	RC造、一部S造・木造
階数	地上4階、地下2階
建築面積	6,952.37㎡
建ぺい率	83.9% < 100%（耐火建築物）
法定延床面積	23,169.58㎡
容積率算定対象延床面積	21,276.35㎡
容積率	256.8% < 600%
最高高さ（平均地盤面より）	34.41m
軒の高さ（平均地盤面より）	34.01m

## ◆施設概要

大ホール部門	舞台・客席 ホワイエ、楽屋	芸術文化の発表（吹奏楽や合唱コンクール） 鑑賞機会の提供 （オーケストラ、室内楽・器楽、吹奏楽、合唱、ロック、ポップス、歌謡曲、演歌、ジャズ、演劇、ミュージカル、邦楽、ダンス・バレエ、民族舞踊、演芸等） コンベンション、大規模イベントの開催（フェスティバル等） 講演会、学会、式典等の主たる会場
中ホール部門	舞台 ホワイエ・楽屋	芸術文化の発表（ピアノ発表会、創作活動発表会等） 市民主体の芸術文化活動（映画の上映、演劇等）
小ホール部門	大練習室	研修会、総会、講座等の主たる会場
展示室部門	展示室 オープン展示スペース	芸術文化の発表・美術展示（絵画、彫刻、書道、写真等） 物産イベント、商談会の会場
会議室部門	大会議室、中会議室、 小会議室	会議室 イベント、大会等の分科会の主たる会場
創造支援部門	スタジオ、 和室、板の間	市民主体の芸術文化活動（音楽や演劇等の練習、お茶会等）
交流部門	やぐら広場、 カフェレストラン、 こどもギャラリー、 ラウンジギャラリー、 学習ラウンジ、 ミーティングラウンジ	市民が日常的に集える交流拠点 情報発信拠点
管理運営部門	事務室、機械室、倉庫	芸術文化活動を支える管理・運営の場

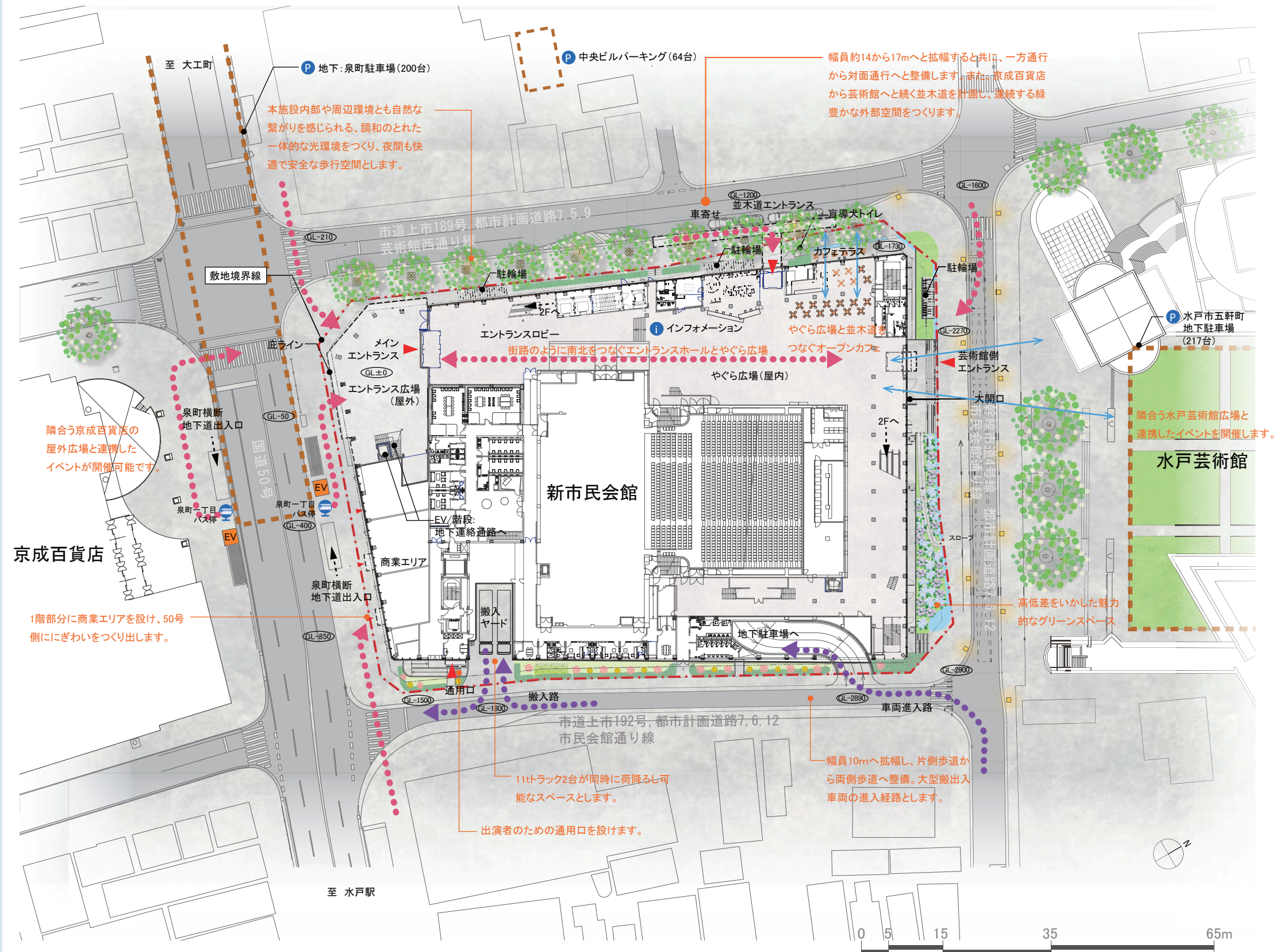


整備計画地案内図 0 50 100 200 500(m)

# 配置計画＋外構計画

## 配置および外構計画の考え方

- ・大ホールを敷地中央に配置し、周囲に対して高さを抑えた圧迫感の少ない建物とします。
- ・水戸駅方面や大工町方面からの徒歩やバスでのアクセスを考慮し、南側にメインエントランス及びエントランス広場を設けます。そのほか、敷地西・北側にも出入口を設けます。
- ・南側（国道50号側）の地上階には商業エリア、2・3階には市民が自由に利用できるスタジオ・展示室・会議室を設けることで、日常的なにぎわいをもった都市の顔をつくり出します。
- ・北側（水戸芸術館側）には大ホールのホワイエを配置することで、芸術館と相まった文化芸術の顔をつくり出します。
- ・国道50号から水戸芸術館へと至る動線を建物の中に設けます。この軸によって、日常的・非日常的な街のにぎわいをつくりだします。
- ・水戸芸術館から京成百貨店までの連続性を生み出すために、整備計画地の東側と西側の道路に安全で快適なゆとりある歩行者動線を確保します。
- ・西側は市道上市189号線計画地で、幅員約14mから17mへ拡幅し、一方通行から対面通行・両側歩道へと整備されます。京成百貨店から水戸芸術館へと連続する並木道を整備することで、都市の軸を強化します。
- ・東側は市道上市192号線計画地で、幅員約10mへと拡幅し、歩行者の安全確保の観点から両側歩道へと整備されます。
- ・敷地西側には車寄せを設け、勾配を設けずにスムーズにやぐら広場へアクセスすることができます。
- ・敷地西側と北西側に駐輪場を設けます。
- ・搬入ヤード・地下駐車場の入口をともに東側に設けます。安全性を配慮し、また、環境整備のため緑化にも努めます。地下駐車場には、車椅子利用者も利用できる駐車場を設けます。
- ・国道50号の地下にある泉町駐車場と地下通路で連結し、来館者が雨に濡れることなく館内へとアクセスできる動線を確保します。



# 平面計画概要 1

## 平面計画の考え方

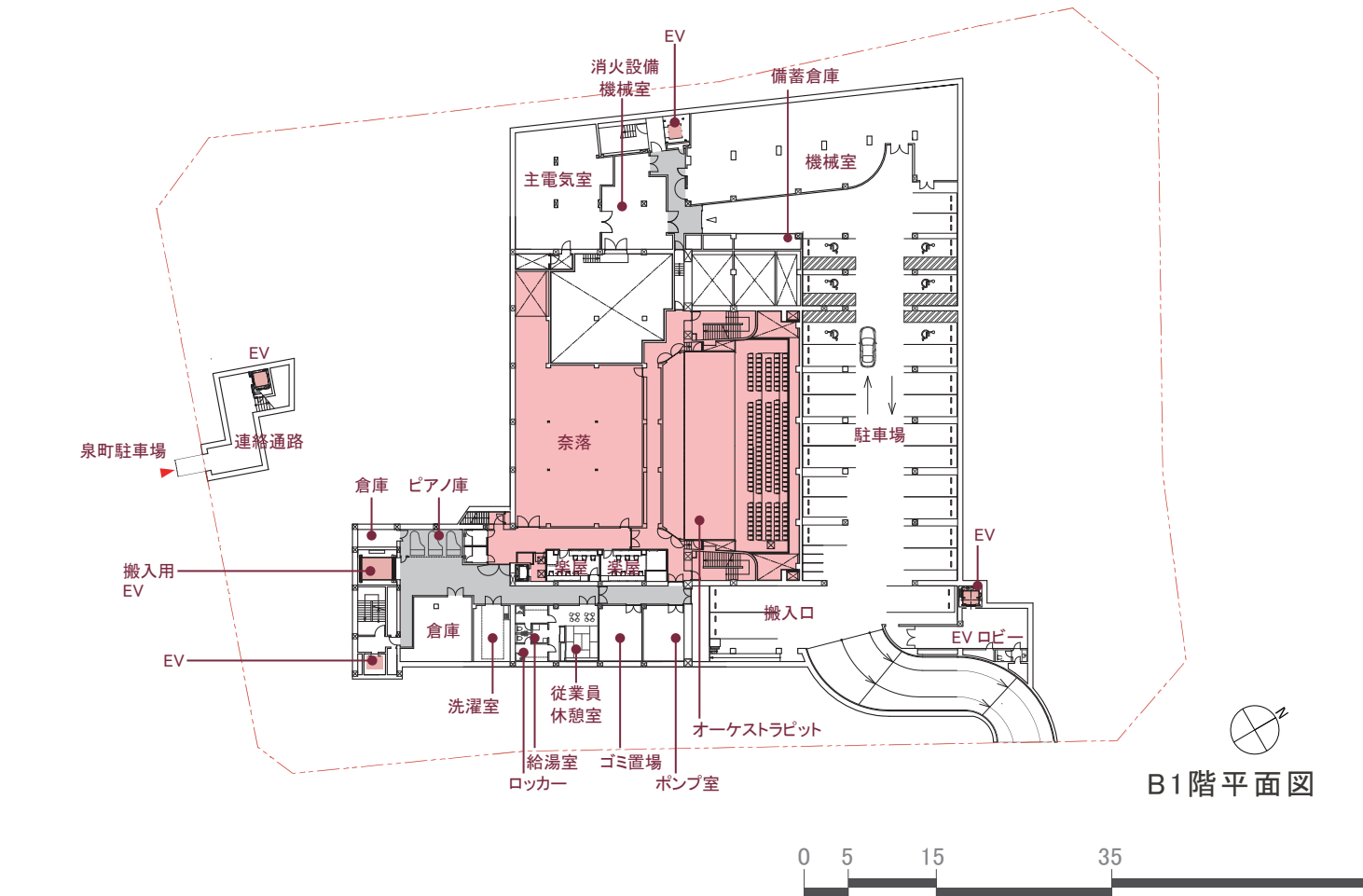
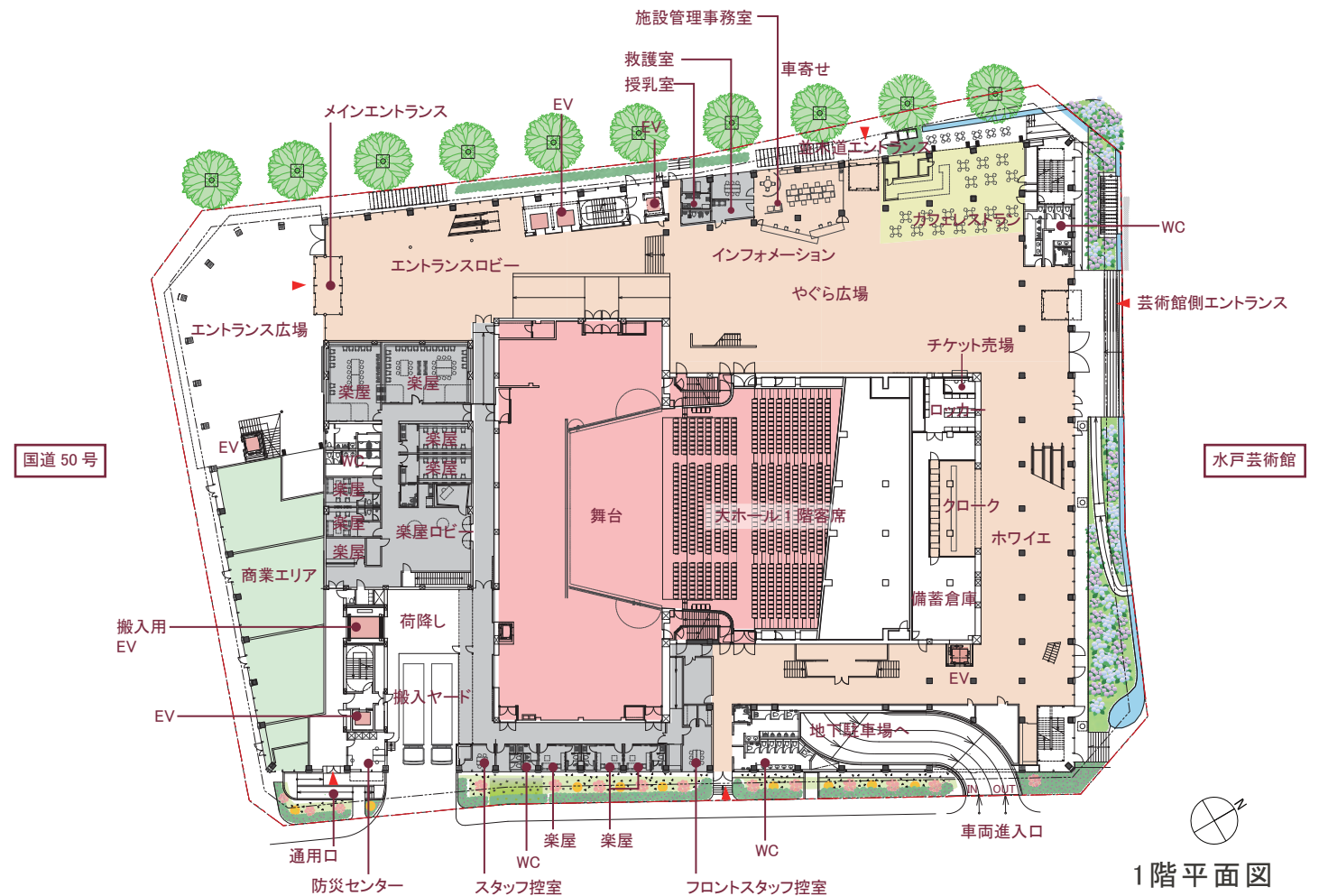
### ■1階

敷地中央に大ホールを置き、南側に商業エリア、北側に大ホールのホワイエ及びやぐら広場を配します。東側には地下駐車場への車両進入路、搬入口、楽屋利用者のための通用口など、主に管理や出演者のための動線をわかりやすくまとめます。

- ・南側のメインエントランスや西側並木道エントランス、北側芸術館側エントランスそれぞれから見渡せる位置にインフォメーション（総合案内）を設けます。また、インフォメーションと隣接して1階から4階までをつなぐエスカレーターやエレベーターを設置することで明快な動線計画とします。
- ・南側のエントランス広場から、エントランスロビー、やぐら広場とつながり、北側の水戸芸術館へと連続する動線をつくります。自由に通り抜けすることのできる、魅力的な屋内の街路のような場所となります。
- ・[やぐら広場] 水戸芸術館の屋外広場と向かい合う屋内広場です。ここでは、コンベンション利用時のパネル展示やマーケット、パブリックビューイングなどが開催され、水戸の新たなにぎわい・交流の拠点となります。水戸芸術館側には大型開口を設け、大型の展示物も搬入可能です。
- ・[カフェレストラン] 西側の並木道通りに開いた、街とつながる開放的な空間となります。
- ・[搬入ヤード] 大ホール舞台に隣接して11tトラック2台が駐車できる搬入ヤードを設けます。

### ■地下1階

地下1階には施設関係者と車椅子利用者のための駐車場と4tトラックの駐車スペースと搬入口を設けます。また、大ホールの奈落や楽屋、従業員の休憩室やロッカー、設備スペース等を配置します。泉町駐車場(200台)と連結する連絡通路を設けることで、雨に濡れることなく館内へとアクセスできる動線を確保します。



## 平面計画の考え方

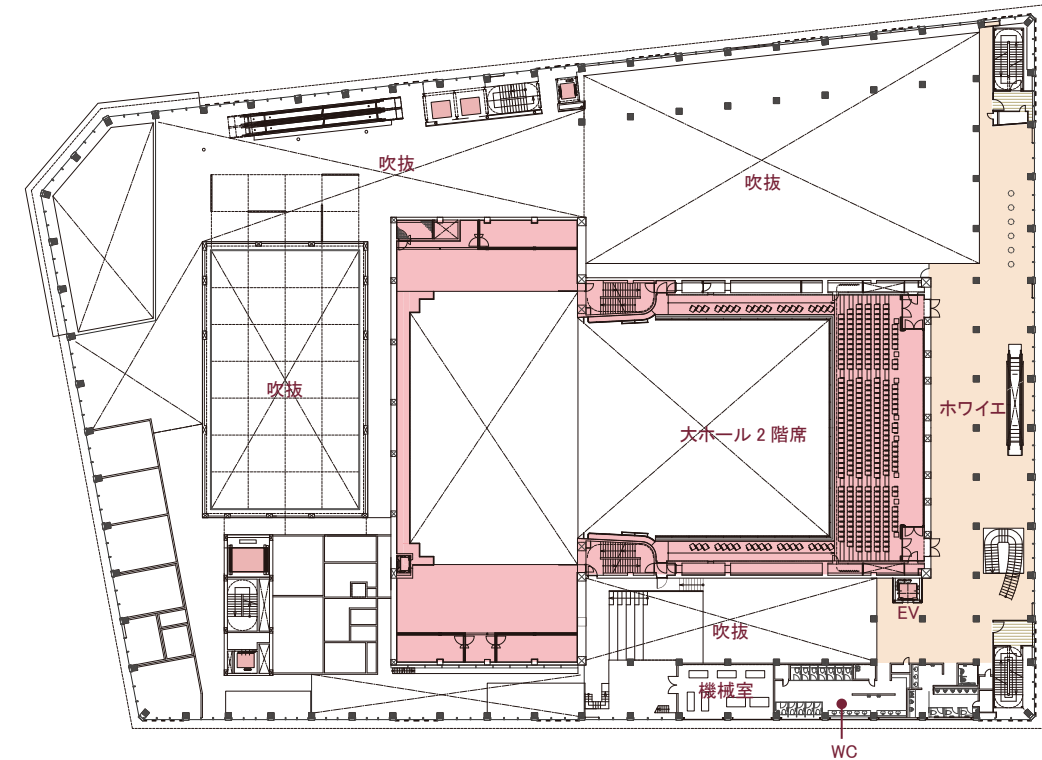
### ■2階

2階は日常的な市民利用頻度の高いスペースを備えています。利用者が自由に使えるオープンな場所は、イベント等の用事が無くても立ち寄りたくなる、サードプレイスとしての市民の拠所となります。

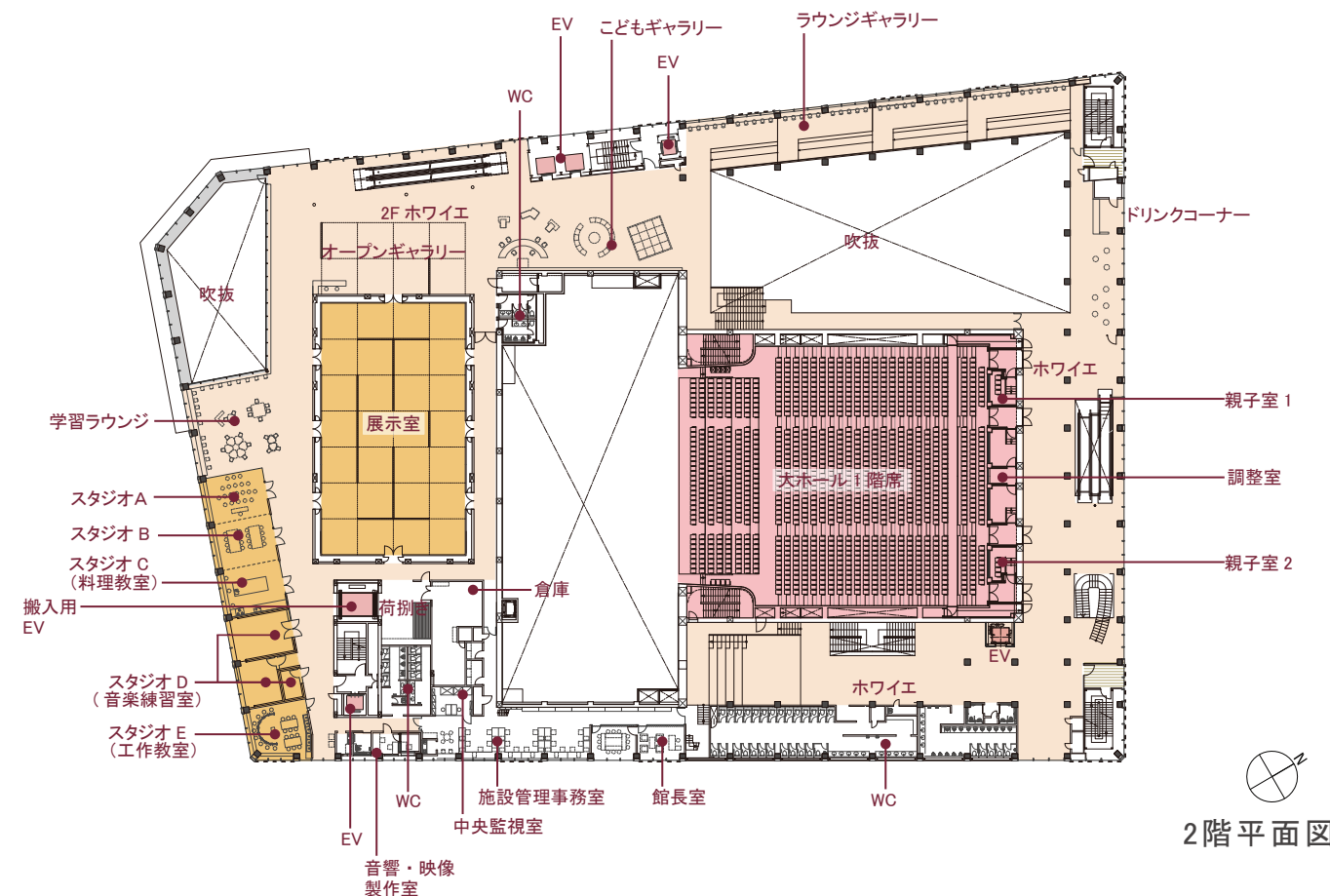
- ・[展示室] 約 430 m<sup>2</sup>のワンルームを、可動展示パネルを用いて適切に分節することが可能です。様々な展示やイベント、コンベンションにおける交流会場など幅広い利用に対応可能です。
- ・[学習ラウンジ] 誰もが自由に利用することができるオープンな学習スペースです。
- ・[各種スタジオ] 市民の芸術文化の学習・交流・創造の場として、音楽・工作・料理などさまざまなプログラムに対応できるスタジオです。スタジオ A,B,C は、開放性が高く、3部屋を一体利用することもできます。
- ・[こどもギャラリー] 子育て支援の場として、絵本の読み聞かせや子供のワークショップ等の各種イベントが開催できます。
- ・[ラウンジギャラリー] やぐら広場と吹抜けを介して面したラウンジスペースです。市民がいつでも自由に利用することができるオープンな場所です。

### ■北側2階 / 北側3階 / 北側4階

大ホールのホワイエになります。自然光と木の香りに包まれた明るく居心地の良いホワイエは、休憩や交流のための魅力的なスペースになります。多くの人が行き交う空間のため、大ホールホワイエ専用のエスカレーターを設けます。やぐら広場の吹抜けに面した部分は、やぐら広場でのイベント時に敷席や立見席としても利用可能です。ドリンクコーナーやスタンディングテーブルも設え、様々なリラックスできる場を提供することが出来ます。また、水戸美術館の芝生広場でのイベントを眺める場所にもなります。



北側3階平面図



2階平面図



## 平面計画の考え方

### ■南側3階

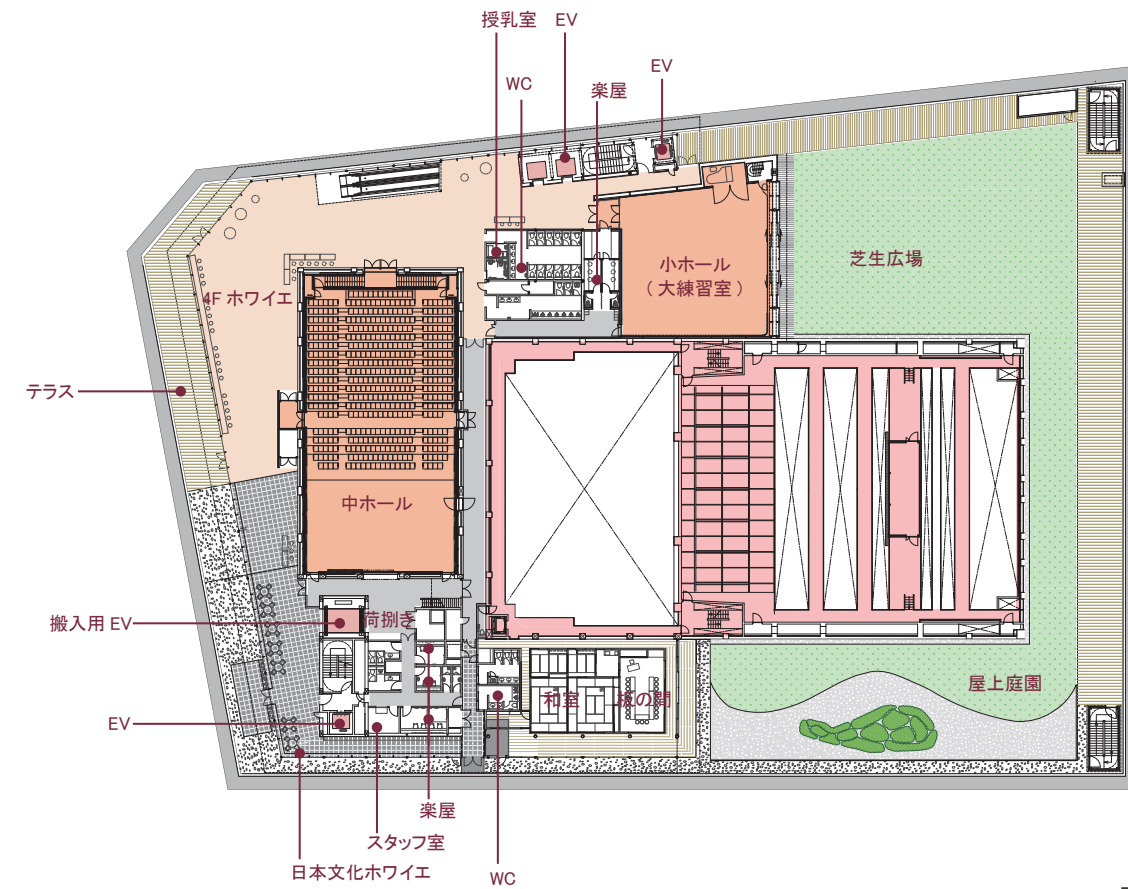
3階は、市民の様々な活動やコンベンションの分科会などに利用できる会議室を配置します。大・中・小の異なる規模と仕様の会議室によって、利用者の様々なニーズに応えることができます。また、遮音機能を持つ会議室を設えることで、音楽や演劇などの練習室としても利用できます。

- ・[大会議室] 1室利用時のスクール形式で最大270人、シアター形式で最大440人の規模で利用できる会議室とします。また可動間仕切によって2分割、3分割での利用も可能です。家具を収納することで、平土間形式のイベントにも対応します。
- ・[中会議室] スクール形式で30～40人程度、シアター形式で40～60人程度の規模で利用できる会議室とします。
- ・[小会議室] スクール形式で10～30人程度、シアター形式で15～50人程度の規模で利用できる会議室とします。また、小会議室1～5については、遮音性能を確保した部屋として、会議室以外にも音楽練習や臨時の楽屋としての利用もできます。

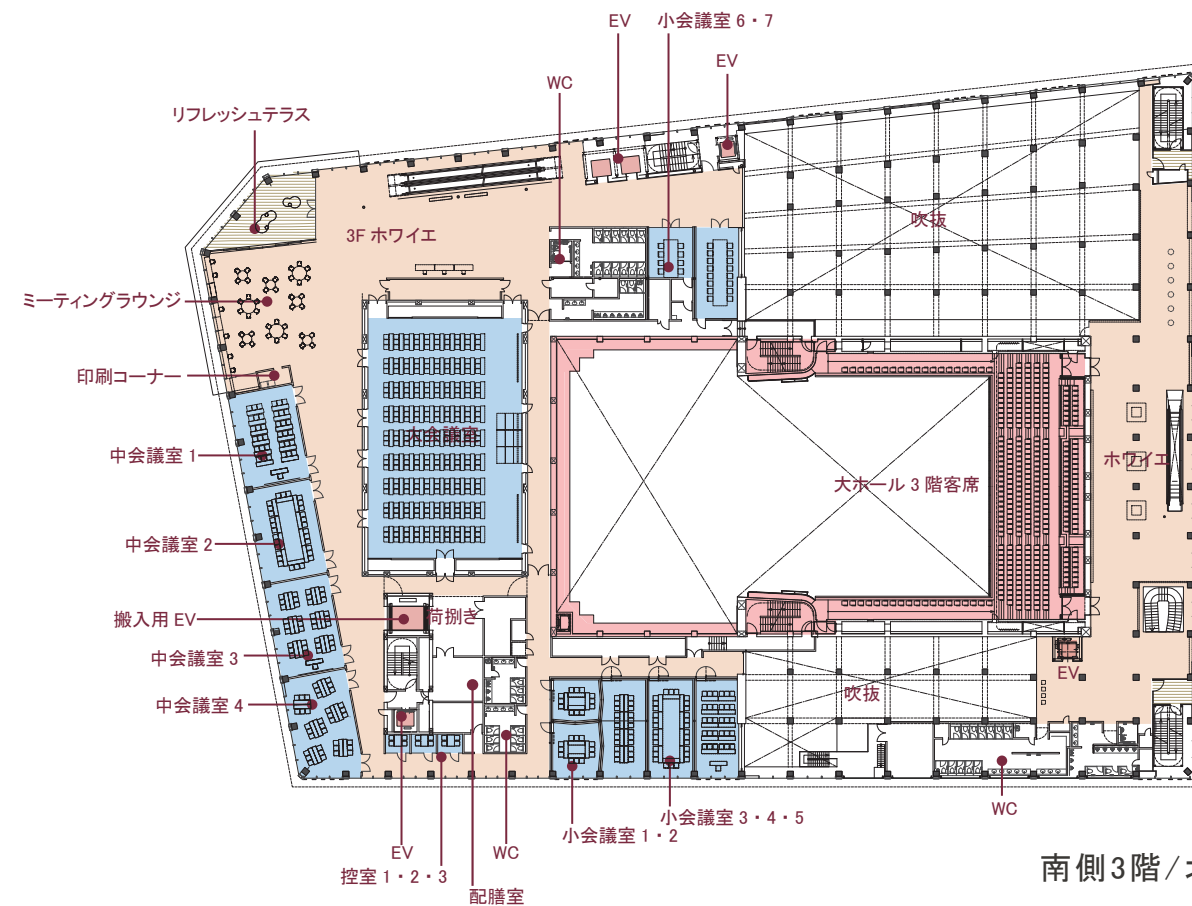
### ■南側4階

482席の中ホール、小ホール（大練習室）、和室や板の間を配置します。また、屋上には芝生広場や屋上庭園を設け、屋外でのイベントプログラムにも対応できます。

- ・[中ホール] 482席のさまざまな用途に対応できる、日常的に使いやすい規模のホールです。
- ・[小ホール（大練習室）] 約8間×8間(14.5m×14.5m)の広さの、段差のない平土間の空間です。大規模な催しのためのリハーサルや練習室としても利用可能です。また、大開口を開けることで屋上の芝生広場との一体利用も可能です。
- ・[和室／板の間／東屋] 縁側に沿った和室と板の間は、茶道／華道／日本舞踊や能の稽古場等の利用を想定したつくりとしています。板の間からつながる屋上庭園は、水戸芸術館タワーを眺める新たなスポットとなります。また、大規模な催しの際は、楽屋としての利用も可能です。



南側4階平面図



南側3階/北側4階平面図



# 断面計画

## 断面計画の考え方

### ■南のにぎわい（商業的にぎわいの強化）

- ・地域商業の軸である国道50号線に面する南側には、地上1階に商業エリア、2階にスタジオ・展示室、3階に会議室といった市民が日常的に利用する施設を配置し、昼夜を問わず、外部に向けてにぎわいが溢れ出す計画としています。

### ■北のにぎわい（芸術文化創造のにぎわい）

- ・水戸芸術館と向かい合う北側には、大ホールのホワイエとやぐら広場を配置し、水戸芸術館と相まって、芸術文化的なにぎわいをつくります。

### ■屋上の公園

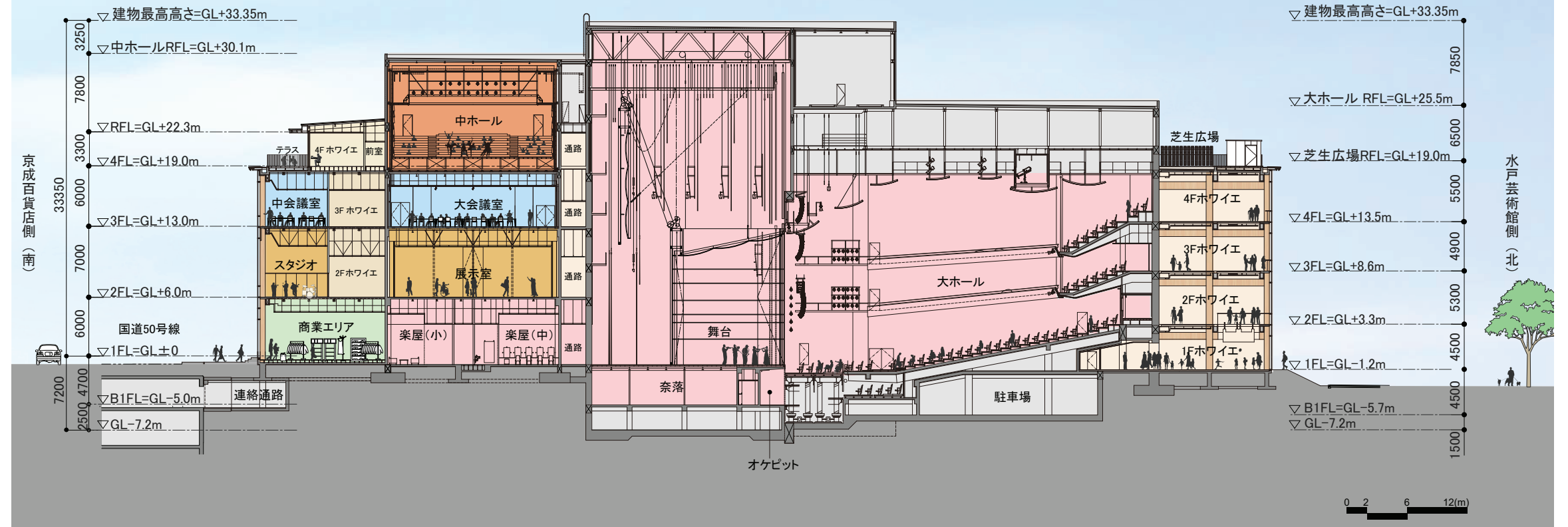
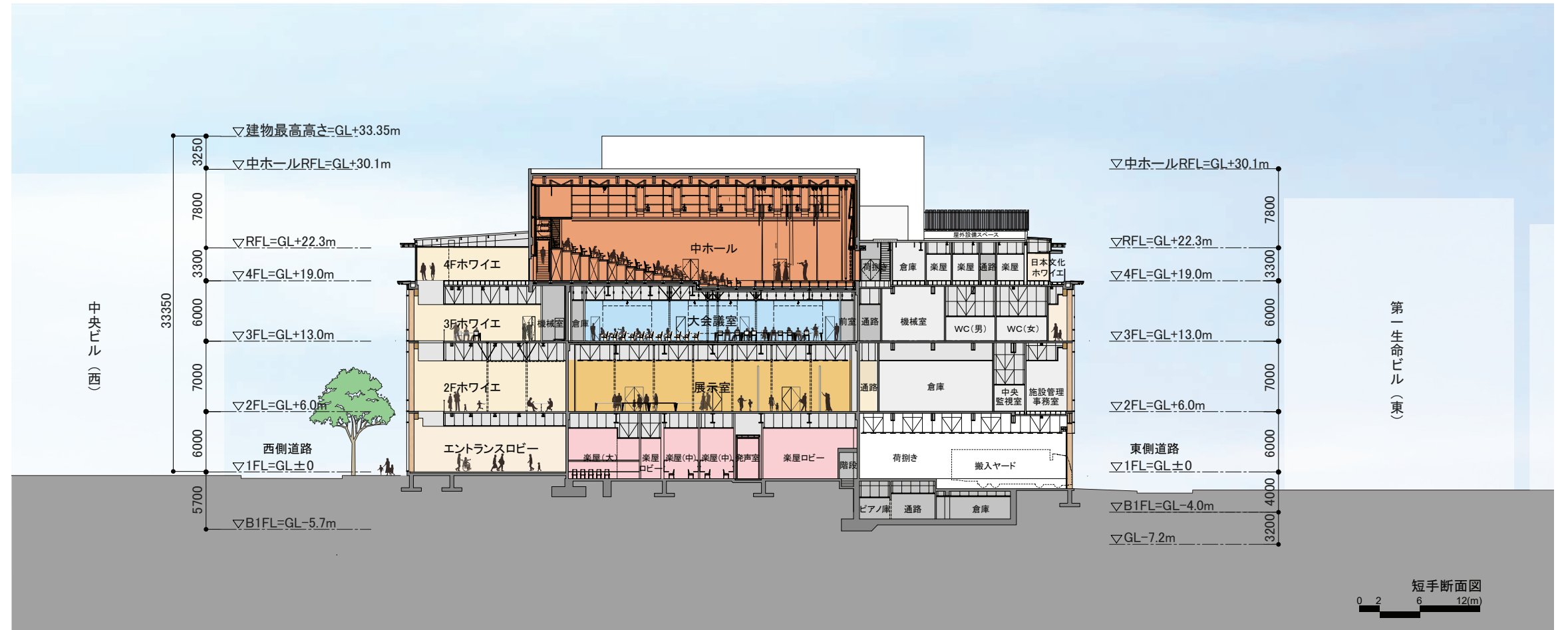
- ・屋上には、市民がいつでも自由に訪れることができる、屋上広場を計画します。小ホールと一体的に利用できる芝生広場や、和室と一体的に利用可能な屋上庭園は、市街地における新たな市民の安らぎの場となります。

### ■諸室の遮音性能

- ・様々なホールや部屋が隣接、または積層される複合施設なので、諸室間に適切な遮音・防振対策を施し、同時使用に配慮した施設計画とします。

### ■地下の連絡

- ・泉町駐車場、京成百貨店から直接アクセス可能な地下連絡通路を設け、施設間の円滑な移動を実現します。





## ■大ホールの特徴

- ・大ホールの規模と用途  
大ホールは、これまで茨城県内では開催が困難であった大規模な催しを実現することができ、2000席の観客席を有するホールです。  
主用途として、次のような多彩な催物が想定される、多目的ホールとして計画しました。

オーケストラ、室内楽、器楽、吹奏楽、合唱、ロック・ポップス、歌謡曲・演歌、ジャズ、演劇、ミュージカル、邦楽、ダンス・バレエ、民族舞踊、演芸等の鑑賞や市民の活動発表の場。  
講演会、各種大会、式典、イベントなどの大規模な催しの主たる会場。

- ・多目的性と可変性  
さまざまな用途に対応するため、可変性のあるホールの計画です。  
スタンダードなプロセニウム形式、可動音響反射板を利用したコンサート形式、観客席との一体感が強い前舞台形式、舞台上のみを使用した平土間形式などが可能です。
- ・使いやすさとプロユース  
市民活動の発表の場として、市民にとって使いやすいシンプルなホールであることを第一に計画しました。同時に、市民が良質な芸術作品を鑑賞するために、ツアー等のプロユースを満足するホール性能を確保し、これらの両立を図りました。
- ・運営形態と舞台設備の計画方針  
大ホールは貸しホールとして運営されるため、過剰な装備を有する必要は無く、イニシャル、ランニングコストを抑えて、利用者が安価に借りられることが最も重要です。そのため、保有する設備、機材はスタンダードで、他のツアー会場相当の必要十分なものとして計画した。

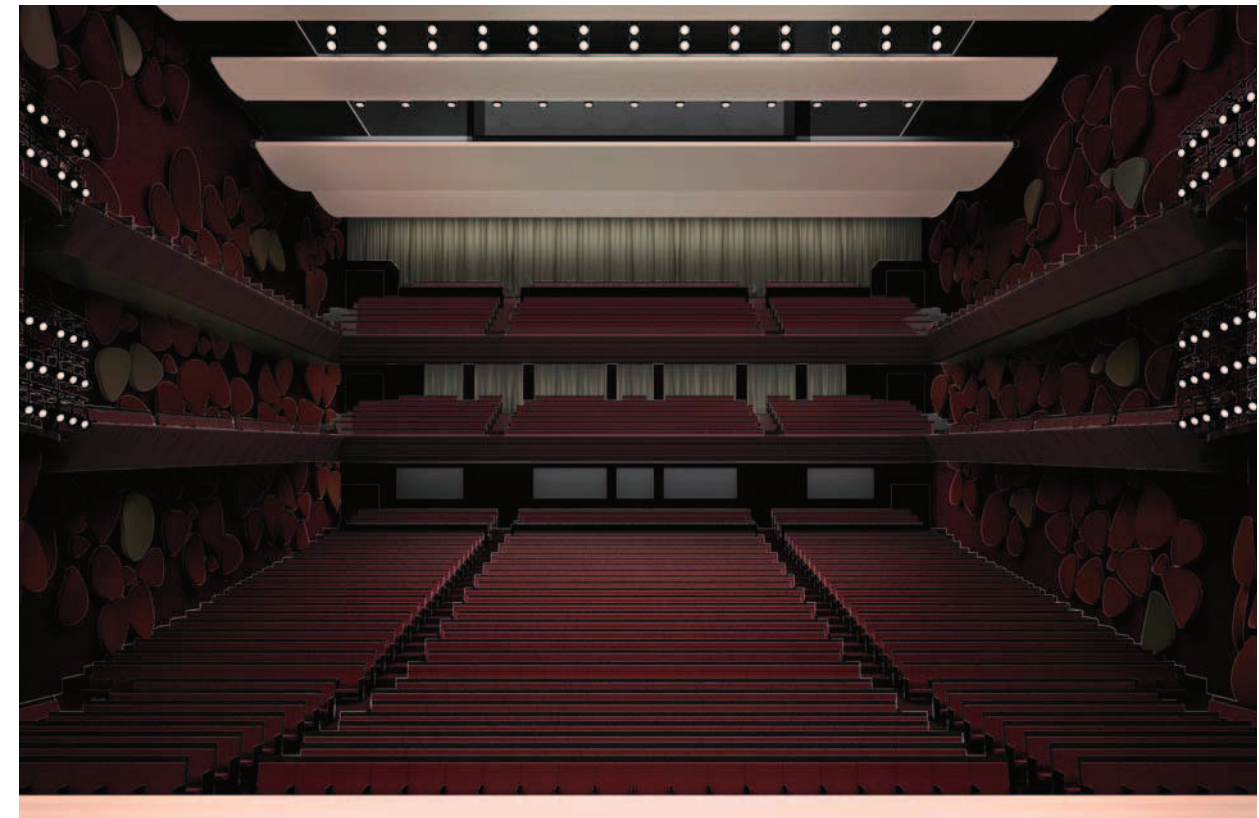
一方、持ち込みやレンタルによる大掛かりで特殊な演出への対応が必要であること、また、ホールや劇場は、使いながら進化していく地域に根差した寿命の長い施設であるべきことから、インフラやシステムは妥協のない十分な機能と拡張性を持った計画としました。

### 舞台概要

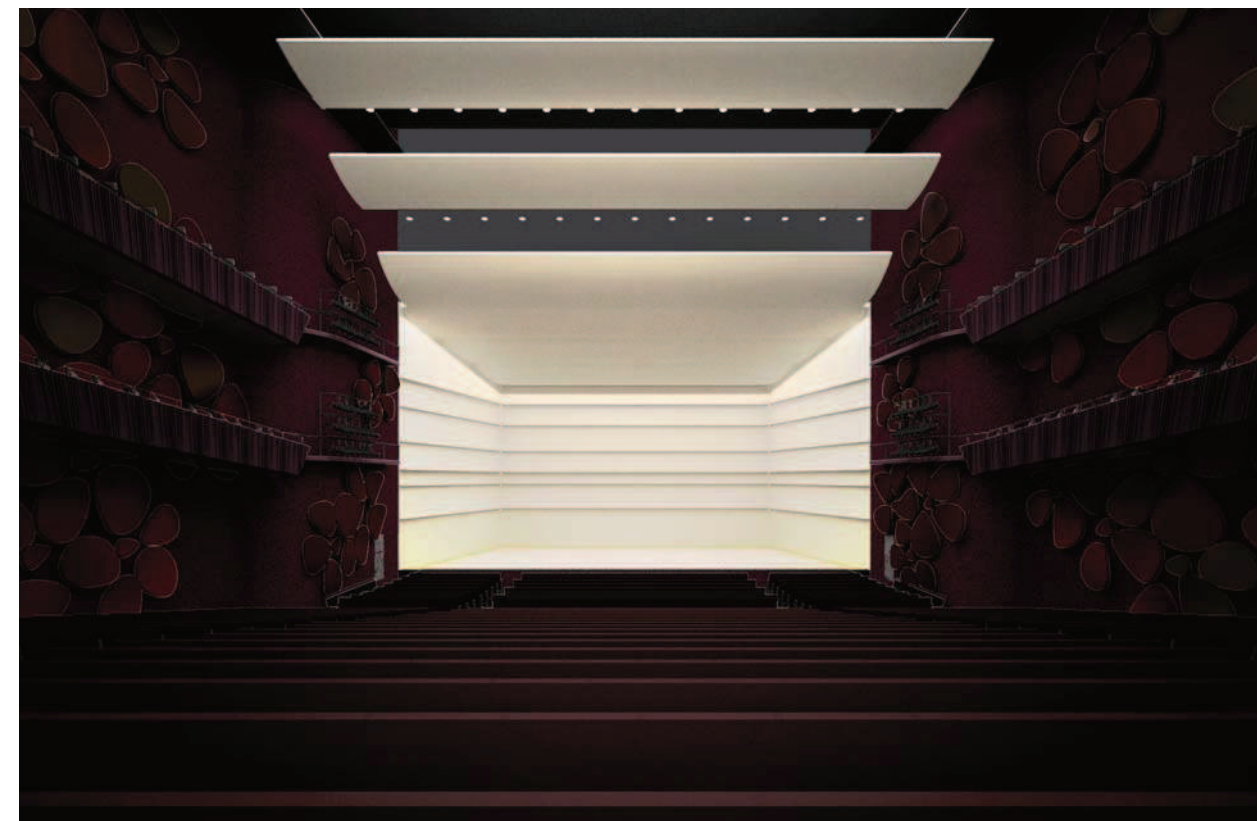
主舞台	プロセニウム形式時 最大間口：10間（約18m） 最大高さ：33尺（約10m） 舞台奥行：10間（約17.5m）  コンサート形式時 間口：23.4m 奥行き：13.5m
オーケストラピット/前舞台	オーケストラ迫り：2台（奥行き2.85m + 2.85m） ピット深さ：最大4.0m

### 観客席

大劇場客席数	
1階席	1293席
2階席	333席
3階席	374席
計	2000席（親子室を含む）
車椅子席	最大26席
親子室	2室（8席）



舞台から客席を見る



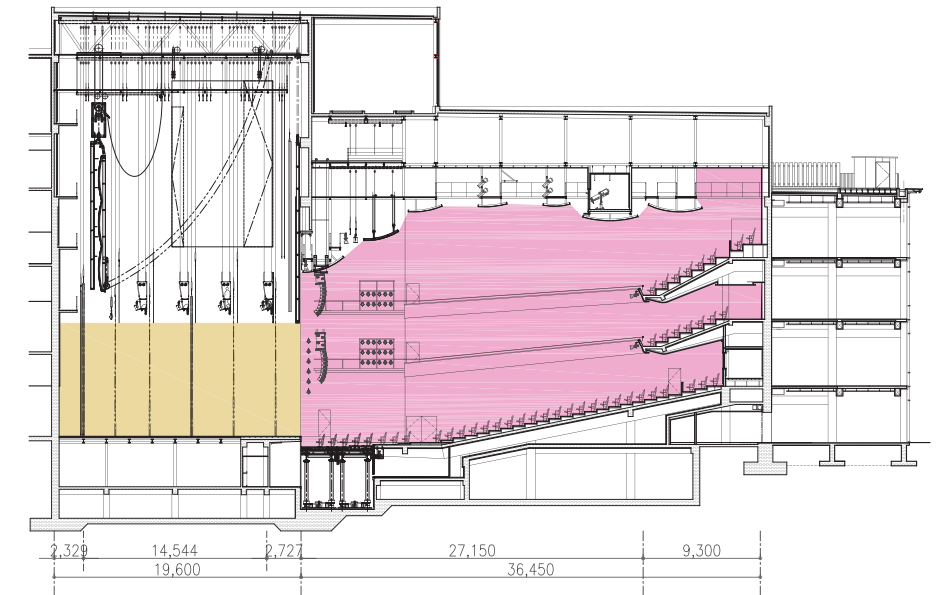
客席から舞台を見る

## ■大ホールの観客席

- ・観客席の構成  
1階席、2階席、3階席からなる、3層構成の観客席です。
- ・観客席の規模  
催し物の規模にあわせて、1階席のみの利用、2階席までの利用など観客席規模を選択することができます。バルコニー席を利用しない場合は、先端のカーテンを閉じた演出が可能です。  
満席時、空席時、一部利用時のいずれの場合でも同じ音響環境となるように、吸音素材の配置等に配慮します。
- ・サイトライン  
主舞台へのサイトラインの確保だけでなく、近年需要が高まっている前舞台やオーケストラピットの指揮者の視認性にも配慮します。
- ・音響  
多目的なホールですが、建築音響は、後補正ができない生音を重視し、クラシックコンサートに主眼をおいた豊かで長めの響きを実現します。  
さらに、明瞭で短めの響きが望ましい演目や、スピーカーを使用する催し物でも良好な音響を提供します。
- ・サイトラインと音響の両立  
ホールの大部分の客席で、良好なサイトラインと音響の両立を目指します。
- ・快適さと臨場感  
作品を視る映画館とは異なり、劇場の観客は作品と一緒に作りあげる重要な要素なので、ホールの椅子には緊張感や一体感も不可欠です。これらを共有した座席の寸法とデザインを実現します。  
椅子は、幅53cm、列の間隔95cmの千鳥配置としています。
- ・温熱環境  
観客席の空調は、座席下から吹き出す床下空調システムを採用します。冷気を効率的な方向に低速で供給することで、長時間の着座時にも快適な温熱環境を提供します。  
天井の高い空容積の大きな空間に対して、居住域に限定した空調システムなので、省エネルギー化にも貢献します。  
空調騒音の抑制には最大限の配慮を行い、静音性を確保します。
- ・客席照明  
観客を温かく招き入れるような客席照明計画とします。  
入退場時、上演時、セミナー・コンベンション時など、シーンに合わせた調光を設定し、客席の照度と雰囲気演出します。  
演出の要望に応えられるように、細やかな調光回路設定とします。
- ・ユニバーサルデザイン  
複数の場所（1階席前方、1階席後方、2階席後方）に十分な数の車椅子席を設け、選択性をもたせます。  
オーケストラピットを大規模な車椅子席として利用できるように動線を計画します。  
親子室を2室設置します。  
聴覚障害者も高品質で利用できるよう、補聴システムを導入します。
- ・安全性  
地震時に落下事故等が無いように、安全性に対する最大限の配慮を行います。  
火災時に円滑に避難できるように、避難安全検証法によるシミュレーションを行いました。

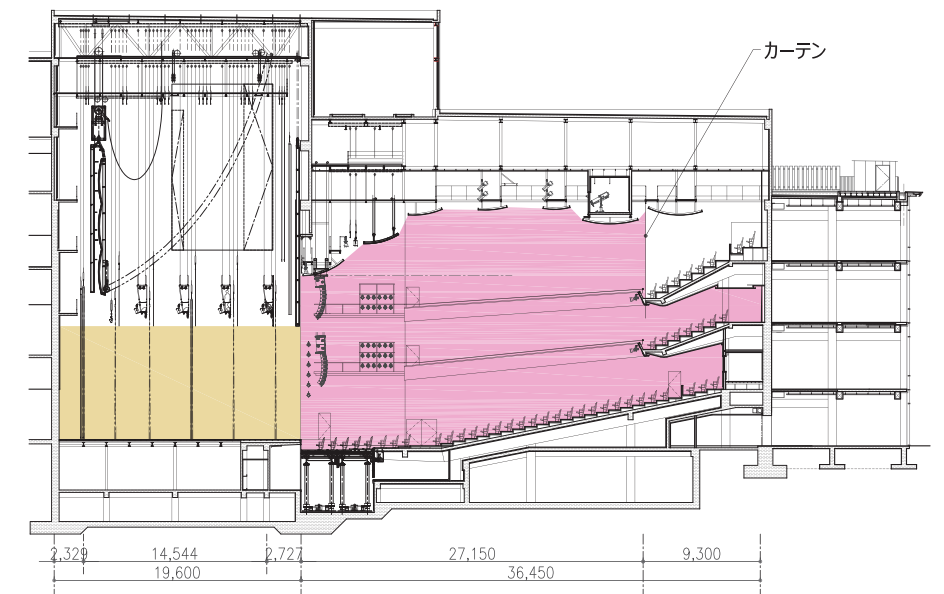
全階利用(2000席)

客席数	3階席: 374席
	2階席: 333席
	1階席: 1293席
	合計: 2000席



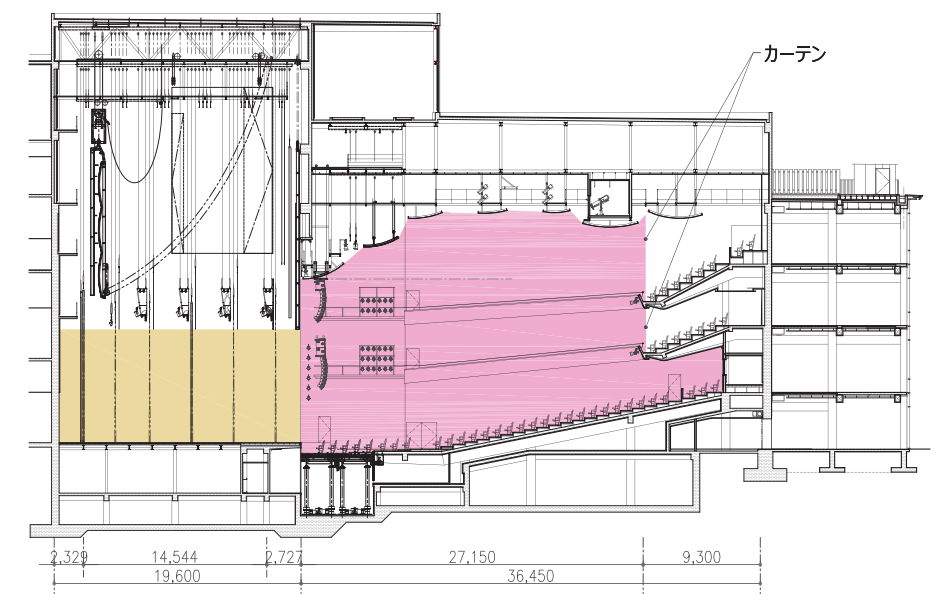
1階席・2階席のみ利用

客席数	3階席: - 席
	2階席: 333席
	1階席: 1293席
	合計: 1626席



1階席のみ利用

客席数	3階席: - 席
	2階席: - 席
	1階席: 1293席
	合計: 1293席



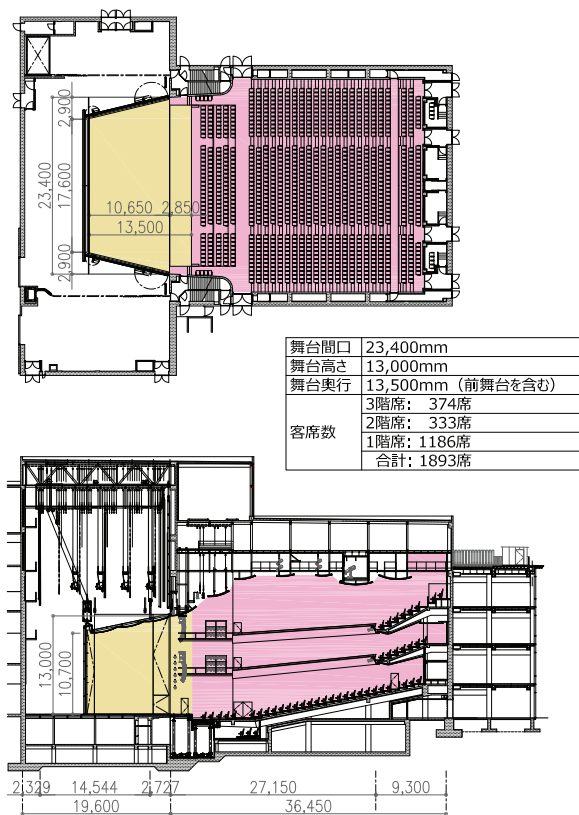
## ■大ホールの舞台

- 主舞台**  
 移動型音響反射板を利用したコンサート形式、可動プロセニアムアーチと各種幕を利用したプロセニアム形式、さらには、実験的な演出など、多様な用途に対応します。
- 主舞台の規模**  
 プロセニアム形式時：最大間口10間（約18m）、最大高さ33尺（約10m）  
 観客席との一体感を重視したイベント時：最大間口約23.4m、最大高さ約13m  
 舞台奥行：10間（約18m）  
 下段すのこの高さ：約27.5m  
 奈落深さ：13尺（4.0m）  
 コンサート形式時：間口23.4m、奥行13.5m（主舞台上10.65m、前舞台上2.85m）
- 側舞台**  
 上手、下手にそれぞれハーフサイズ程度の側舞台を設けます。
- オーケストラピット/前舞台**  
 舞台と観客席の間に、奥行2.85mのオーケストラ迫りを2台設置し、合計奥行5.7mのオーケストラピットを設けます。  
 ピットの深さは4.0mまでの自由な高さに設置可能です。  
 オーケストラ迫り上に客席ワゴンを設置することで、2列、または5列の観客席として活用することができます。  
 オーケストラ迫りを舞台面まで上昇させることで、前舞台が形成されます。1台だけ利用することも、2台とも利用することも可能です。  
 コンサート形式時には、オーケストラ迫りを上昇させて舞台として利用します。音源が客席空間の中に入ってくるため、親密で良質な音を届けることができます。
- 前舞台すのこ**  
 前舞台の上部にも大規模なすのこを設置し、特殊なイベントや実験的な演出を支援します。
- 舞台のユニバーサルデザイン**  
 車椅子利用者が容易に出演できるように、舞台と同レベルの楽屋、段差のない動線を提供します。  
 楽屋ゾーンに多目的トイレを設置します。

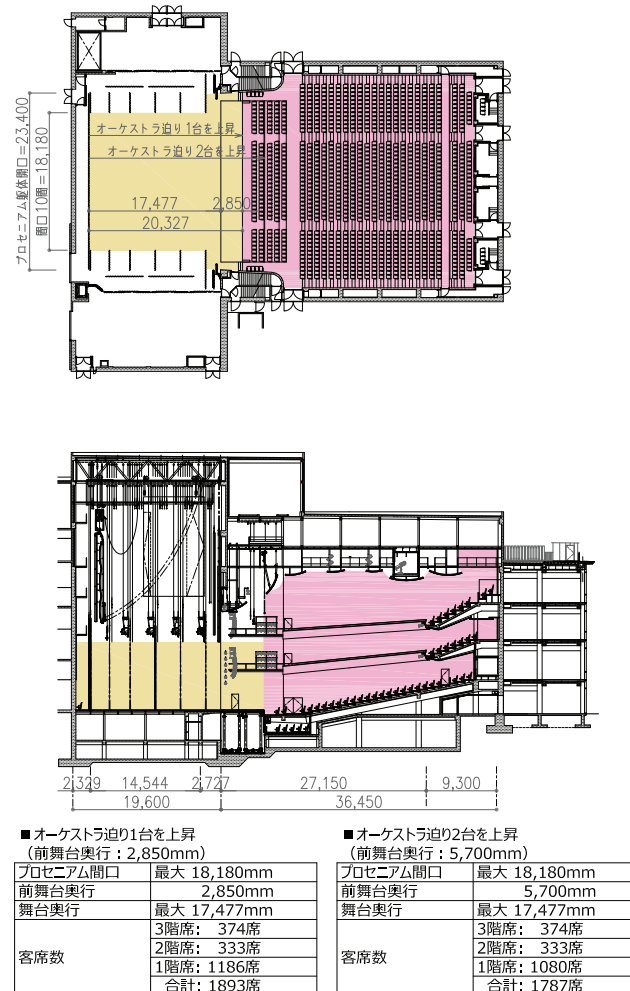
## ■大ホールの搬入計画

- 主搬入口**  
 ホール舞台に隣接した利便性の高い搬入口に、2台の11tトラックが駐車可能です。地下駐車場には、4tトラックの駐車が可能です。
- 主搬入口の遮音性**  
 この搬入口は、大ホール以外の用途との共用搬入口ですが、上演中にも搬入できるように、二重の遮音シャッター等によって十分な遮音性を確保します。
- サブ搬入口**  
 地下駐車場のサブ搬入口を利用することで、さらなる運搬能力を活用できます。

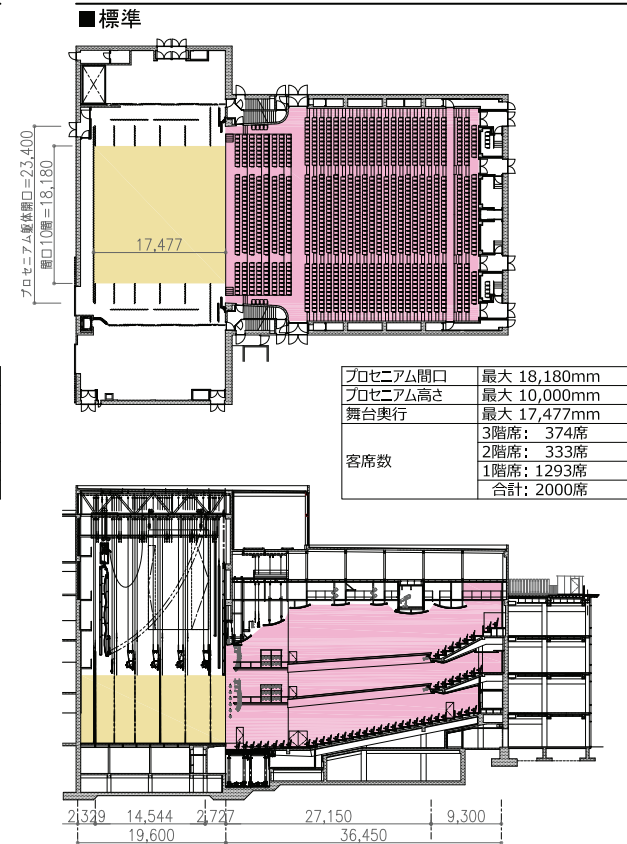
## コンサート形式



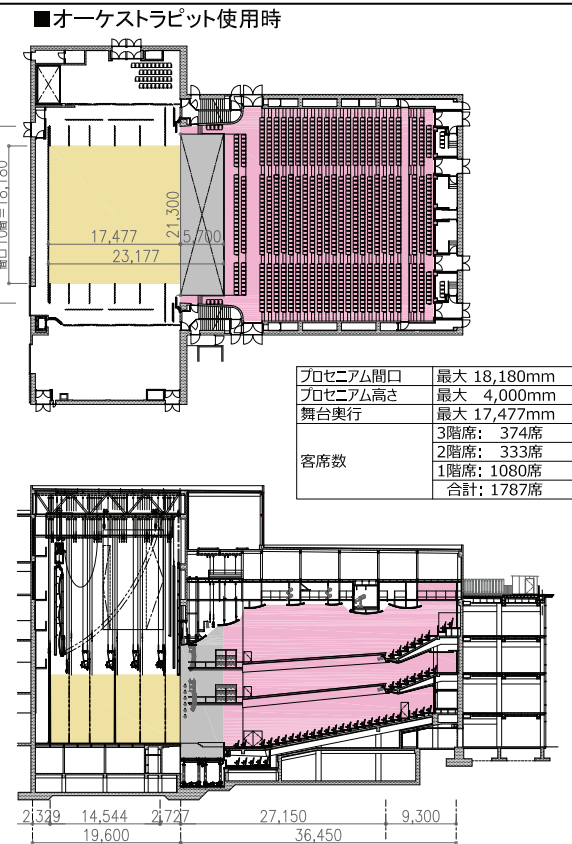
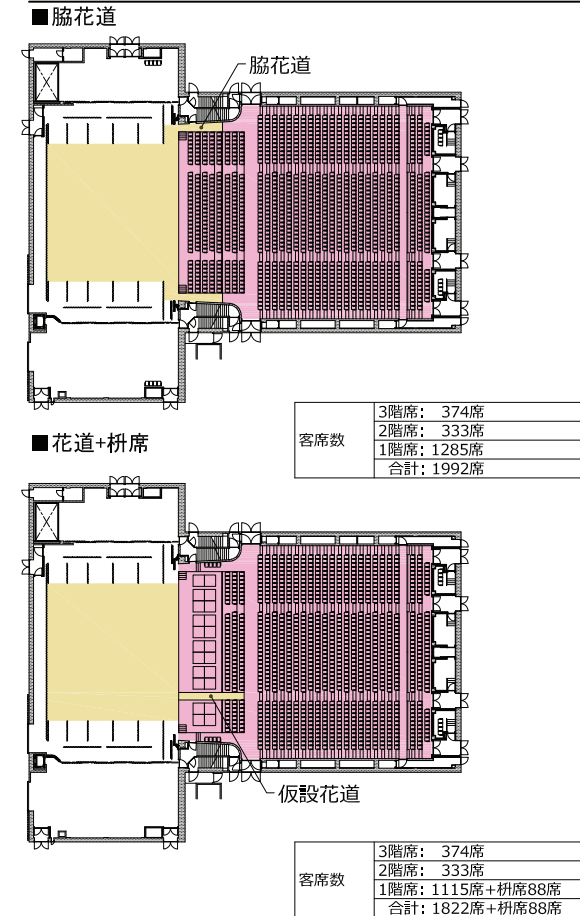
## 前舞台形式



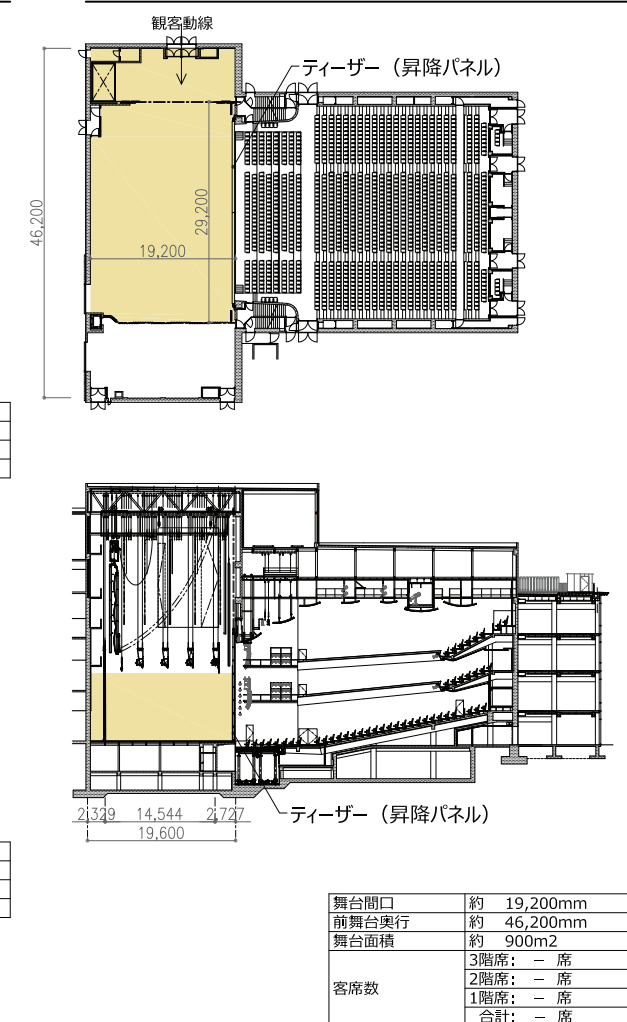
## プロセニアム形式



## 花道形式



## 平土間実験劇場形式(舞台のみを利用)



## ■中ホールの特徴

### ・中ホールの規模と用途

中ホールは、日常的に使いやすい規模の、482席の観客席を有するホールです。主用途として、次のような多彩な催物が想定される、多目的ホールとして計画しました。

室内楽、器楽、吹奏楽、合唱、ロック・ポップス、歌謡曲・演歌、ジャズ、演劇、ミュージカル、邦楽、ダンス・バレエ、民族舞踊、演芸等の鑑賞や市民の活動発表の場。講演会、各種大会、式典、イベントの会場。

### ・ホールの構成

さまざまな用途に対応できる、三方のテクニカルギャラリーと6列の照明ブリッジを配した、観客席1層のシューボックスタイプのホールです。観客席は居住性の良い固定席とします。横通路前方は可動席とし、平台を設置することで拡張舞台へ転換することができます。

### ・使いやすさとプロユース

日常的な需要が多いと予想される、定型的な催し物（小規模なコンサート、講演会、式典、簡単な発表会や演劇など）の設営を短時間で準備できる、市民にとって使いやすいことを重視した施設・設備計画としました。さらに、特殊な演目やプロユースも満足するホール性能を確保し、これらの両立を図りました。

### ・運営形態と舞台設備の計画方針

中ホールは貸しホールとして運営されるため、過剰な装備を有する必要は無く、イニシャル、ランニングコストを抑えて、利用者が安価に借りられることが最も重要です。そのため、保有する設備、機材はスタンダードで、他のツアー会場相当の必要十分なものとして計画しました。

一方、持ち込みやレンタルによる大掛かりで特殊な演出への対応が必要であること、また、ホールや劇場は、使いながら進化していく地域に根差した寿命の長い施設であるべきことから、インフラやシステムは妥協のない十分な機能と拡張性を持った計画としました。

## ■中ホールの観客席

### ・デザインコンセプト

コンサート、講演会、式典などの日常的な開催が多いと予測される演目に重きをおいた、明るい印象のホールとします。

### ・観客席の居住性

中ホールは快適性に優れた固定席とします。

### ・サイトライン

各席からの良好なサイトラインを確保します。

### ・音響

大ホールと同様、建築音響は、後補正ができない生音を重視し、クラシックコンサートに主眼をおいた豊かで長めの響きを実現します。さらに、明瞭で短めの響きが望ましい演目や、スピーカーを使用する催し物でも良好な音響を提供します。

### ・ボックス・イン・ボックス構造

中ホールは、大ホール・小ホール・大会議室との間の遮音性能を確保するため、建物躯体の上に防振ゴムを介した二重床と壁で構成する、ボックス・イン・ボックス構造を採用します。

### ・快適さと臨場感

長時間滞在する座席には快適性が必要ですが、作品を視る映画館とは異なり、劇場の観客は作品と一緒に作りあげる重要な要素なので、ホールの椅子には緊張感や一体感も不可欠です。これらを共有した座席の寸法とデザインを実現します。椅子は、幅52cm、列の間隔91cmの千鳥配置としています。

### ・温熱環境

観客席の空調は、天井からゆっくりと吹き降ろし、長時間の着座でも快適な温熱環境を提供します。空調騒音の抑制には最大限の配慮を行い、静音性を確保します。

### ・客席照明

観客を温かく招き入れるような客席照明計画とします。入退場時、上演時、セミナー・コンベンション時など、シーンに合わせた調光を設定し、客席の照度と雰囲気演出します。

### ・ユニバーサルデザイン

横通路部に6つの車椅子席を設けます。聴覚障害者も高品質で利用できるよう、補聴システムを導入します。車椅子利用者が容易に出演できるように、舞台と同レベルの楽屋、段差のない動線を提供します。

### ・安全性

地震時に落下事故等が無いように、安全性に対する最大限の配慮を行います。火災時に円滑に避難できるように、避難安全検証法によるシミュレーションを行います。

## ■中ホールの舞台

・コンサートに適したエンドステージを基本とします。袖が必要な場合は、道具バトンとサイドギャラリーを活用して、幕や仮設パネルによって容易に形成可能です。

### ・舞台の規模

舞台間口：約8間半（約15.6m）、サイドギャラリー間の間口：7間（約12.7m）  
舞台奥行：約5間（約9.6m）  
天井高さ：約30尺（約9.3m）  
照明ブリッジまでの高さ：約23尺（約7.1m）

### ・舞台の拡張

横通路前方の座席を取外して平台等で埋めることで、舞台を3間（約5.4m）拡張することが可能です。その際、座席は116席減少し、366席となります。

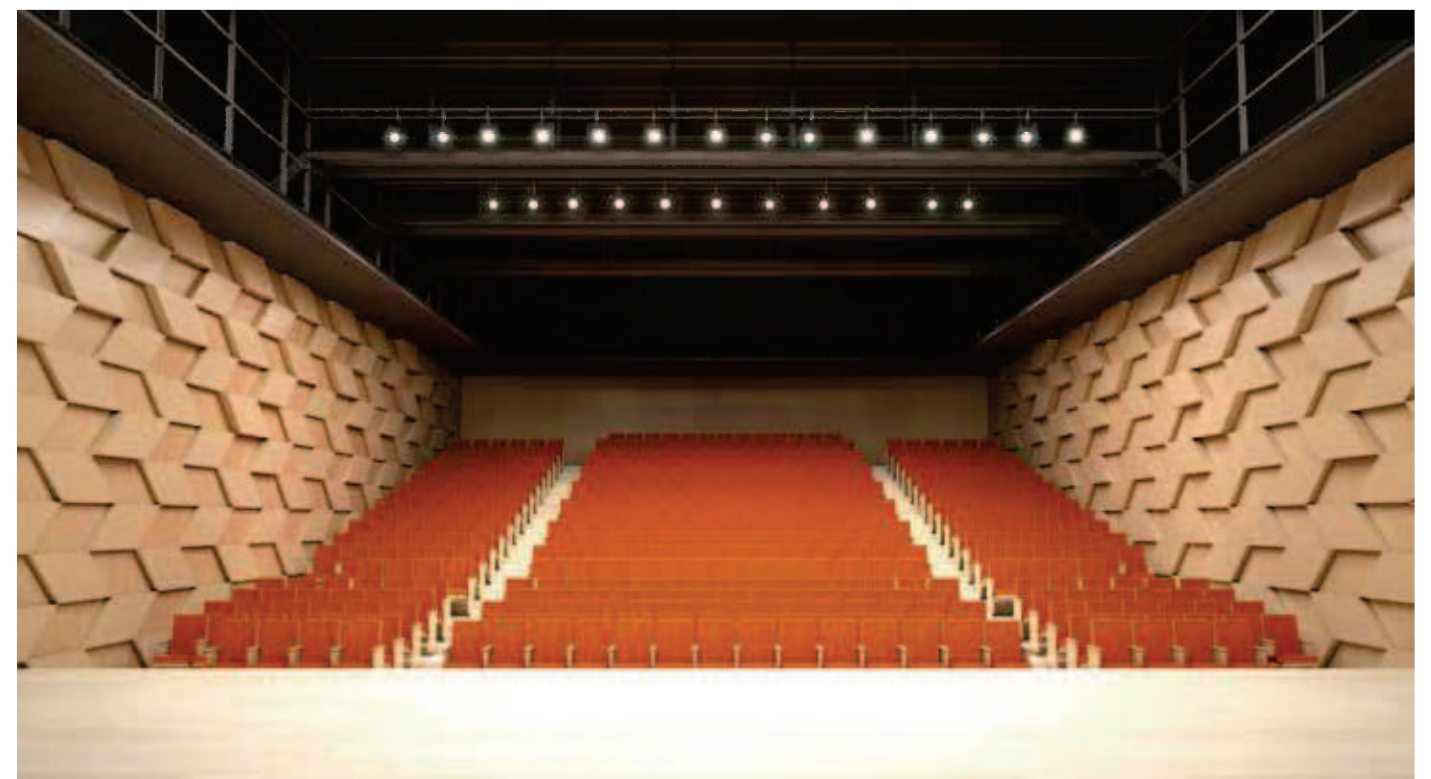
## ■中ホールの搬入計画

### ・搬入用エレベーター

舞台裏の大型搬入用エレベーター（かご寸法約2.5x3.4m）から、荷捌き場を介して舞台に搬出入します。

### ・主搬入口の遮音性

1階の搬入口は、大ホールや各階諸室との共用ですが、二重の遮音シャッター等や、エレベータードアの前への遮音建具の設置によって十分な遮音性を確保します。



舞台から観客席を見る

## 小ホール（大練習室）の概要

### ■小ホール（大練習室）の概要

- ・小ホールの規模と用途  
小ホールは、定員192人の多目的ホールです。  
ジャンルを問わない様々な催しが開催可能であり、以下のような用途が想定されます。  
  
大ホールや中ホールのリハーサル室としての利用。  
大規模な学会、コンクール開催時の控室としての利用。  
生涯学習プログラムの各種講座・イベントやワークショップ等の会場。  
各種音楽、舞踏、演劇等の鑑賞や市民の活動発表の場。  
講演会、式典等の会場
- ・ホールの規模、形状  
平面形状：約8間\*8間（約14.5m\*約14.5m）の平土間。  
天井高さ：固定バトンまで約23尺（7.1m）。  
二方にテクニカルギャラリーを設置。
- ・屋上との連携  
屋上庭園に面した、自然光と風の入る、明るい小ホールです。必要時には、カーテンで遮光や目隠しができます。  
大型開口を開け放つことで、屋上庭園との一体的な利用や、自然光や風を利用した実験的な演出も可能です。
- ・建築の装備  
固定バトン（建築工事）  
天井に、グリッド状の固定バトンを配し、技術的な機能性と自由度を高めます。  
ピッチ：1,818x1,818  
高さ：舞台面+7.1m  
  
テクニカルギャラリー  
2辺にテクニカルギャラリーを設置します。  
高さ：舞台面+4.2m  
  
リハーサル機能の充実  
鏡や可搬式のレスンバーを設置します。  
  
カーテン  
各壁面は、カーテンによって、鏡の隠ぺい、暗室の形成、吸音調整を行うことができます。
- ・音響  
壁面を傾ける・平行面に吸音処置をするなど、フラッターエコー（音が繰り返して反射し聞こえる状態）の抑制に配慮します。  
カーテンで残響調整することで、生音からスピーカー利用まで、様々な催しに対応します。
- ・浮き床構造  
二重スラブによる浮き床構造とすることで、隣接する大ホール、中ホール、下階会議室との防振遮音性能を確保します。
- ・安全性  
地震時に落下事故等が無いように、安全性に対する最大限の配慮を行います。  
屋上庭園を介して避難することができる、安全性に優れた配置計画です。
- ・ユニバーサルデザイン  
ホワイエより段差を設けずにアクセス可能な平土間空間として、全ての人に配慮した動線計画とします。
- ・控室  
隣接した控室を設置します。中ホール楽屋、和室との柔軟な共用も可能です。
- ・セキュリティ  
防犯に有効かつ利便性の高い、セキュリティラインを構築します。  
リハーサル室として利用する場合の、一般利用者との分離に配慮します。
- ・搬入計画  
小ホールへの大型機材等の搬入は、中ホールと共用の大型搬入用エレベーター（かご寸法約2.5x3.4m）を利用することができます。  
隣接したピアノ庫から移動して、グランドピアノの利用が可能です。



小ホール（大練習室）から芝生広場をみる